

「話のたねのテーブル」より

ユウゲシヨウの花はいつ咲く？

(Oenothera rosea)

岩瀬 徹

ユウゲシヨウはアカバナ科の越年草ないし多年草である。熱帯アメリカ原産といわれ、明治年間にはすでに観賞用に導入されたらしいが、近年急激に増えて街なかの空き地や道ばた、畑の周辺などにたくさん見られるようになってきている。

これとは別に、オシロイバナにユウゲシヨウという呼び方があるので、こちらをアカバナユウゲシヨウと呼んで区別することもあるが、いまユウゲシヨウといえ、まずこちらを指している。

ユウゲシヨウは“夕化粧”で何やら意味ありげな名前であるが、近縁のマツヨイグサ類と同じように夕方花が開き翌朝にしぼむと見なされて付けられたのであろうか。「日本の帰化植物」(平凡社)には、「夕暮れに開花する」と書かれている。「日本帰化植物写真図鑑」(全農教)には「花は夜咲き」としている。インターネットの情報も「花は夜開くが、昼のうちに咲くものもある」といったあいまいな表現が多い。

さて、実際にユウゲシヨウを観察してみると、夕方開いてこないばかりか、日中咲いていた花がほとんどはしぼんでしまう。ではいつ咲くのか。2008年の5月から6月にかけて何人かでそれを確かめた。

その結果は、岩瀬徹・川名興・飯島和子共

著「校庭の雑草 (CD付)」(全農教, 2009年)に記されている。

ユウゲシヨウの開花は、未明の4時から5時ごろであることがわかった。日中は咲き夕方6時から8時ごろにしぼむ。花によるばらつきがあり7月暑くなるとしぼむのが早まった。つまり、1日花であるが、まれに夕方しぼまず、翌日まで続く花もあった。

小著「形とくらしの雑草図鑑」(全農教, 2007年)のユウゲシヨウの項でも「夜開花する」と記しているが、「花は未明に開く」と訂正したい。

ちなみに、近年街なかが増えているヒルザキツキミソウ *Oenothera speciosa*についても飯島らが調べたが、開花は夕方ではなく、未明であることがわかった。そして多くは夜もしぼまず、翌日まで続く2日花であることを知った。このあたりの経過についても上記「校庭の雑草 (CD付)」に述べられている。



▲ ヒルザキツキミソウ



▲ ユウゲシヨウ

本稿は全国農村教育協会のホームページに掲載されたものを著者のご了解を得て再録しました。「話のたねのテーブル」は毎週2題ずつ更新しています。ぜひ、ごらんください。

<http://www.zennokyo.co.jp>